

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571300148		
法人名	社会福祉法人同朋福祉会		
事業所名	グループホームひかりの園		
所在地	山口県美祢市於福町下3267-1		
自己評価作成日	平成30年11月27日	評価結果市町受理日	令和 元年 6月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と一緒に敷地内にある畑に季節の野菜を植え、共に水やりや収穫を行い、採れた野菜は調理し皆で美味しく頂いている。また花見やみかん狩り、月に一度の外出で行った先での地域の方との関わりを持ち、季節の移ろいも感じてもらっている。法人の行事や中学校の運動会に参加し地域の皆さんとの交流を図り、ケアハウスで行うミニ運動会には小学生の参加もあり交流している。敬老会、ひな祭りにはご家族にも出席していただき楽しいひと時を過ごして頂いている。法人行事のフェスタでは、自施設の作品を展示すると共に他施設の作品も見学し、次の作品作りの意欲が引き出せるようにしている。利用者の想いに寄り添い利用者が楽しみを持って暮らす事が出来るようにお手伝いさせて頂きたいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、月1回の職員会議や毎朝夕のミーティング時に職員の意見や提案を聞く機会を設けておられる他、日常の業務の中でも聞いておられ、出た意見や提案を法人の高齢者部会や施設長会議で検討しておられます。利用者が安全で希望にそった外出支援が出来るように、利用者を少人数単位にしての外出支援を工夫されるなど、職員の意見を大切にされて運営に活かしておられます。日頃のケアの振り返りとして全職員が自己評価に取り組み、管理者が中心となって項目ごとに集約され、回覧して共有後、最終的にまとめたものを再度職員に周知されて、ケアの実践につなげておられます。事業所の畑でとれた旬の野菜を活用されて、利用者の好みを聞きながら献立を立てられ、利用者一人ひとりの状態に合わせて、形状(きざみ、とろみ、ミキサー)の工夫をされるなど、食事が楽しみなものになるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の中で穏やかな暮らしが出来るよう、職員は法人の理念である優しい心、ふれあう心、温かい心を持ち、職員と共に利用者が明るく楽しくの～んびりと過ごせるよう施設内に理念を掲示すると共に朝礼時に唱和で共有し実践に繋げている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり事業所内に掲示している。朝礼時に理念を唱和して全職員が共有し、日々のケアの中で実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の行事には地域の方の協力、参加があり交流出来ている。また日々の散歩等で地域の方との関わりを持っている。隣接のケアハウスと合同で行うミニ運動会では小学生の参加がある。中学校の運動会では競技に参加している。園にはカラオケや尺八演奏のボランティアの来訪もある。	月1回発行している法人便りに、事業所の活動を紹介し、地域の理解を得るように努めている。中学校の運動会に出かけ利用者が玉入れ競技や踊りに参加している。法人主催の夏まつりやフェスタに、地域の人の参加がある他、法人と合同のミニ運動会に参加した小学生と交流している。民生委員と地域のいきいきサロンのメンバーが来訪し、利用者とは交流している他、ボランティア(カラオケ、尺八)の来訪や食材配達業者との交流がある。近所から花の差し入れがあったり、日頃の散歩時には挨拶を交わしているなど、事業所は地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内勉強会や外部研修に参加し知識を習得し、地域の人たちから相談があった場合は、自分の知識の範囲で応えるなど地域への貢献に努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の意義について説明し、全職員が自己評価を行い、職員はケアの振り返りとして活用している。	管理者は、職員に評価の意義を説明している。全職員に前回の外部評価結果を提示して、自己評価のための書類に記入してもらい、管理者が項目ごとに集約して回覧した後、それをもとに話し合い、最終的にまとめたものを再度回覧して共有している。前回の評価結果を受けて、運営推進会議の内容についてや災害時の地域との協力体制、応急手当や初期対応の訓練等、目標達成計画を立てて、できるところから改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、市高齢福祉課職員、地域包括支援センター職員、消防署職員、警察駐在、民生委員、地域の方を案内し、年6回開催している。会議では取組状況の報告や、困りごとの助言等を頂きサービスの向上に活かしている。	会議は年6回開催し、活動状況や事故報告、行事予定、利用者の状況、外部評価、防災訓練などについて質疑や意見交換している。メンバーより、身体拘束に関しての専門的見地からの意見や外出先の提案や助言などの意見があり、サービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町担当者や包括支援センター職員とは、入居希望者の情報や、研修開催の情報ももらうなど、日常的に協力関係が築けている。法改正があった時は助言を頂き対応するなど関係が築けている。	市担当者とは、運営推進会議時や電話で法改正等についての相談や情報交換をしている他、直接出向いて介護保険に関する相談などをし、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話で利用者の状況について情報交換をしたり助言を得て、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内勉強会で身体拘束について学び、どのような行為が身体拘束に当たるのかをすべての職員が理解しており、身体拘束は絶対にしてはならないとの認識を持ち業務に携わっている。日中は所在確認表の活用や利用者の様子を観察し、一緒に外に出て気分転換を図るなど、鍵をかけないケアを実践している。	内部研修で年2回身体拘束に関する研修を実施し、職員は理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず、外出したい利用者には職員と一緒に出かけているなど、気分転換の工夫をしている。スピーチロックについては、気づいた時には管理者がその都度指導し、職員どおしでも話しあっている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内部研修や施設内勉強会で虐待防止関連法を学び、どういったことが虐待に当たるのかを知っており、虐待を見過ごさず事のないように職員は共通理解し防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修会や他の機会があれば積極的に参加し知識を得たいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアの取り組みや起こりうるリスク、施設で出来る事、出来ない事、退居時の対応等について、本人や家族が不安、疑問に思われている事等訊ねながら十分な説明を行い理解・納得が得られるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱を設置している。苦情の受付体制を定め、入居時に家族に説明している。家族会を兼ねた行事参加時や日々の来訪時に家族からの要望を聞かせて頂けるように、日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めている。	第三者委員を設置しており、契約時に苦情や相談の受付体制について家族に説明している。面会時や年2回の家族会を兼ねた行事（ひな祭り、敬老会）参加時に、家族からの意見や要望を聞いている。個別のケアの要望にはその都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や朝礼時に職員の意見や提案を聞いている。また日常の業務の中でも職員は意見や提案を聞かせてくれている。職員からの意見や提案は月に1回の施設長会議や高齢者福祉部会で検討し運営に反映させることにしている。	月1回の職員会議や毎朝夕の申し送りとミーティング時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも職員の意見や提案を聞いている。意見や提案は、月1回開催している法人の高齢者部会や施設長会議で検討している。安全で、利用者の希望にそった外出支援ができるように、利用者を少人数単位にしているなど、出た意見や提案を運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し日々の労をねぎらい、各々が抱えている悩み等が軽減できるように、また資格取得等向上心を持って働けるように職場の環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は研修案内情報を職員に伝え、希望や本人の段階に応じた研修が受けられるように配慮し、年2回の法人内研修や施設内勉強会など学べる機会を確保している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。認知症高齢者グループホーム職員研修、職場のメンタルヘルス等年4回受講している。受講後は復命報告を行い資料を回覧して全職員の知識の共有を図っている。法人研修は、年2回(学びセミナー、虐待防止を考える)実施し、受講後は資料を回覧している。内部研修は、年間計画に基づいて月1回開催している。認知症について、風水害防災訓練、事故防止・再発防止、緊急時の対応(誤嚥、窒息、食中毒、発熱、骨折、心肺蘇生、防災マニュアルの復唱)、身体拘束、虐待についてのテーマで実施している。新任研修は管理者や先輩職員の指導によって、日々の業務の中で学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会の宇部、山陽小野田ブロックに所属し同業者との交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった段階で本人の想いを良く聴き、理解を深め本人の想いを受け止め不安が軽減できるように努めている。また信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安に思っていることを話やすい雰囲気作りに努め、家族の想いに耳を傾け安心して頂けるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」に、本人、家族に何が必要なのかを見極め、場合によっては他事業所に繋げる等の対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる力が十分発揮でき、それぞれが輝ける場面を工夫し、お互いを尊重できる関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話があった時等に様子を伝え、移設と家族が共に本人を支えているとの思いを共有してもらい、一緒に支えていく関係が築けるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の知人や友人が訪ねて来られたり、通い続けている美容院にパーマをかけに行かれたりしている。知人や友人の訪問時には気を遣わず話しやすい雰囲気、場所の提供に努めている。	家族の面会や親せきの人、近所の知人、友人の来訪がある他、電話の取次ぎや年賀状、手紙のやり取りの支援をしている。自宅周辺のドライブ、家族の協力を得ての外出、外食、温泉、一時帰宅、美容院、墓参りなど、馴染みの人と場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状態や相性を見極め、お互いが気持ちよく関われるように職員が間に入り工夫している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた場合でも、会いに行く等して関わりを持つ様に努めている。退居されたご家族が電話をかけて来られたり、街で会えば声をかけたり掛けられたり、関係が切れないうようにし、相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で発せられた本人の言葉や思いはケースダイアリーに記録すると共に職員間で共有し、本人の思いや意向の把握に努めている。	入居時のセンター方式のシート(生活歴やなじみの暮らし方、生活環境等)を活用している他、日々の関わりの中で、利用者のご様子や行動、表情をケースダイアリーに記録している他、「私の姿と気持ちシート」に随時追加記録して、思いや意向の把握に努めている。散歩時や入浴時などに利用者の思いが発せられることがあり、個別対応の時間を大事にしている。困難な場合は、職員間で話し合って本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話や、家族、知人からの話でこれまでの暮らしや生活環境等を把握するように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方を観察し、好む事、好まない事、出来る事、出来ない事、心地よいと感じる事等を把握し、本人の持っている力が引き出せるように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者には日常の関わりの中で想いを聴き、家族には面会時や電話で意見や意向を聴き、それぞれの意向を反映しながら職員全体で意見交換やカンファレンスを通じて計画を作成している。基本的には6か月での見直し。状態に変化が生じた場合は随時見直しをしている。	月1回、計画作成担当者が中心となって、カンファレンスを開催し、本人や家族の意向、医師の意見を聞いて話し合い、介護計画を作成している。評価表(モニタリング実践記録表)によって月1回モニタリングを実施し、6か月ごとに見直しをしている他、利用者の状態の変化に応じて現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に残し、申し送りや伝達ノート、状態申し送り簿等で情報を共有しケアの実践や見直し、計画作成に活用している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況も考慮しながら、かかりつけ医への通院介助や選挙がある時には選挙の付き添い支援等、出来る限り利用のニーズにこたえられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心、安全に豊かな暮らしができるよう、消防、警察、地域の方のレク訪問や民生委員等の協力を得ている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族に確認し医療機関を決めている。かかりつけ医や協力医療機関と連携し、継続的に適切な医療を受ける事ができるよう支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医としている利用者は1人で、それ以外は協力医療機関をかかりつけ医としている。本人や家族が希望するかかりつけ医の受診は家族の協力を得て支援している。協力医療機関をかかりつけ医としている利用者は、事業所が定期受診の支援している。他科受診は、家族の協力を得て支援している。受診時は「緊急時個人カード」で主治医に情報を伝えている。結果は電話で家族に伝え、職員は申し送り簿と伝達ノートに記録し共有している。緊急時や夜間はかかりつけ医や協力医療機関と連携し、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察を良くし、変化に気づいた時は法人のクリニック看護師に報告またはオンコール対応の看護師に連絡し適切な対応が取れるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人が落ち着いて療養できるように、医療機関に情報を提供している。入院中は面会に行き、看護師から様子を訊き状態の確認をし、家族と連絡を取りながら出来るだけ早い退院に向けた支援をしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学时、契約時にターミナルケアは実施していない事や、施設で出来る事、出来ない事、重度化した場合の方針を家族に説明している。重度化した場合は主治医や看護師、家族と話し合い方針を共有し支援している。	契約時に、重度化した場合に事業所のできる対応について、移設を含めて家族に説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から家族の意向を確認し、主治医や看護師と相談しながら関係者と話し合い、方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事例が発生した場合は当日の出勤職員で話し合い報告書に対応策を記録している。報告書の検討会を実施し再発防止に努めている。AED・応急手当講習会は年1回消防署や救急救命士の資格を持った法人職員の協力を得て隣接のケアハウスと合同で行っている。また施設内勉強会で緊急時の対応について学び実践力を身につけている。	事例が発生した場合、その場の職員が状況や今後の対応策について話し合い、ヒヤリハット報告書または事故報告書に様式に沿って記録している。申し送り時に報告し、全職員に回覧するとともにコピーを貼り出して職員間で共有している。さらに3か月ごとにまとめたものを、事業所の事故対策会議で検討し、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。職員は、内部研修で緊急時の対応(誤嚥、窒息、食中毒、発熱、骨折、心肺蘇生)について学んでいるが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は消防署等の協力を得て年2回、風水害は年1回隣接のケアハウスと合同で行い、全職員が利用者が避難できる方法を身に付けている。	年2回、隣接の法人施設と合同で、昼夜間想定火災通報、消火、避難、誘導訓練を実施している他、年1回水害、土砂災害訓練を実施している。火災訓練のうち1回は消防署の協力を得ている。自動通報装置を設置し、法人として地域の連絡先リストは作成しているが、連絡網としては未活用で協力体制を築くには至っていない。事業所として、災害時の水分や食料の適切な備蓄をしている。	・地域との協力体制の構築	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の研修会や施設内勉強会で誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、対応の仕方を学び、利用者を決して傷つけることのないように気を付けている。個人情報の取り扱いにも十分気を付けている。	法人研修と内部研修で、職員は人格の尊重とプライバシーの確保について学んで理解しており、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば、管理者がその都度指導している。個人記録等の個人情報は保管に気をつけ、守秘義務を徹底している。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に分かりやすい声掛けをし、思いが表出しやすい雰囲気作りに努め、自己決定できるように工夫し支援している。	/		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況に応じて声かけをし様子を見守り、本人の希望や選択を尊重し本人のペースで過ごしやすい一日が提供出来るよう支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の衣服の選択など本人の希望を訊きながら、本人の気に入ったおしゃれができよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月曜日～土曜日までの昼食は法人のきつちゃんセンターからの配食を利用している。朝食・夕食、日曜日の食事は園で職員が作り、利用者は簡単な下ごしらえ等を手伝っている。	月曜日から土曜日の昼食は法人の配食を利用し、朝食と夕食、日曜日の三食は事業所で食事をつくっている。事業所の畑で採れた旬の野菜(トマト、ナス、キュウリ、オクラ、枝豆、かぼちゃ、さつまいも、玉ねぎ)を活用して、利用者の好みを聞きながら献立作成をしている。利用者は職員と一緒に、野菜の下ごしらえ、台拭きなど、できることをしている。利用者一人ひとりの体調に合わせて、きざみ食、とろみ食、ミキサー食などの形状の工夫をしている。季節の行事食(おせち、ひな祭りの蛤汁、恵方巻、おはぎ、ソーメン流しなど)やおやつづくり(ホットケーキ、ぜんざい、たこ焼きなど)、おやつタイムの抹茶、弁当持参の花見、道の駅でのおにぎりとうどん、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことができる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てた献立をベースにホームで工夫を加え、トロミ剤の使用や、お粥、副食の刻み、ミキサー食など本人に合った食事形態を提供し、適量が摂取できるように支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に力量に応じた支援をこころ掛けている。義歯の洗浄消毒は毎日夕食後に行い、歯ブラシやコップは定期的に消毒を行い清潔を保つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックをし、一人一人に合わせた声かけ誘導を行いトイレで排泄が出来る様に支援している。	日誌メモを活用して排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の声かけや飲食物の工夫、適度な運動の促しで、便秘予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は午前中に実施し、週3回入浴できるように支援している。利用者の体調に応じてシャワー浴や個浴、清拭の対応もしている。入浴したくない利用者には職員を替え声掛けの工夫や時間を見計らって誘うよう工夫している。入浴剤は毎回使用し、柚子湯で季節を感じてもらっている。	入浴は毎日、10時から12時まで可能で、週3回は入浴できるように支援している。利用者の状態にあわせて清拭や足浴、シャワー浴、機械浴の支援をしている。入浴剤で気分転換したり、ゆず湯にして季節の楽しみを取り入れている。入浴したくない人には無理強いをせず、言葉かけの工夫や順番を変えるなどして、利用者一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調を観ながら、日中の活動に参加を促し、生活リズムが整うように支援している。ゆっくり安心して休んで頂けるよう話を聴いたりして精神的な安定が図れるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個別にファイルし、いつでも確認できるようにしている。誤薬防止のために服薬前には名前、朝、昼、夕を声に出して確認し本人に渡すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設の行事、調理の下ごしらえや下膳、畑の草取り、洗濯たたみ、本を読んだり音楽を聴いたり、塗り絵やパズル、作品作り、脳トレ等楽しみを持ちながら本人の得意な事を活かし活躍できる場面作りをしている。外出や外食、散歩などで気分転換が出来るよう支援している。	畑仕事(植えつけ、草取り、水やり、収穫)、家事(洗濯物たたみ、掃き掃除)、調理(下ごしらえ、台ふき)、ぬり絵、貼り絵、折り紙、ジグソーパズル、カルタ、脳トレ(計算ドリル、まちがい探し)、百人一首の坊主めくり、新聞や雑誌をよむ、テレビやDVDの視聴、雑巾縫い、布ぞうりづくり、歌を歌う、生け花など、利用者の好みや特技を生かした活躍できる場面づくりをしている他、法人の夏まつりやフェスタ、ミニ運動会、3B体操、いきいき音楽教室への参加など、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や畑の野菜、花の世話、作物の収穫など戸外での活動を支援している。利用者の希望もききながらドライブやみかん狩りに出かけ、中学校の運動会では競技に参加し楽しまれている。ドライブでは自宅の近くを通る事もある。また墓参りなどの希望がかなえられるように家族に本人の想いを伝え協力を頂いている。	近隣の散歩や畑の世話、花見(桜)やミカン狩り、中学校の運動会に参加したり、法人行事(夏祭り、フェスタ)に参加している他、道の駅へのドライブや家族の協力を得ての外食、外出、一時帰宅、温泉、墓参り、美容院の利用など、利用者の希望に沿って、出かけられるように支援している。一人ひとりが外出を楽しめるように少人数単位での外出を支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に買物をする機会がある時には利用者が自分で選び、自分で支払いが出来るように支援している。自分の財布に少額を持っている方利用者もあり、自分の財布から自分でお金を出して買物が出来る様支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は必ず出すように支援している。また電話が掛かってきたときには取り次ぎをしている。携帯電話を持っている利用者もあり、自由に家族や友人と連絡を取られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンからは食材を切っている音や料理の匂い等で家庭の中に居る感じを味わってもらえている。ホールにはその時期の際物(ひな人形や五月人形)を飾り季節を感じてもらっている。温度や湿度、換気に気をつけ心地よい環境作りに努めている。	居間兼食堂の天井は高く、ガラス窓からの採光で部屋は十分な明るさがある。窓から見える周囲の山や畑から四季の移ろいを感じることができる。台所から食事をつくる音や匂いがして、生活感を感じることができる。テーブルや椅子、ソファを置き、利用者が思い思いにくつろぐことができる居場所づくりをしている。壁には利用者と職員が一緒に造った季節の作品を飾り、カウンターに鉢植えを置いている。各居室に温湿度計を置き、温度、湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは利用者がソファや椅子、ベンチ等で気の合う利用者同士で思い思いに過ごし、一人静かに過ごしたい人は自分の思うように過ごせる様支援している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の説明でご本人が使い慣れた家具や馴染みの物を持ってきて頂けるように伝え、ご本人の部屋には家族の写真や作品を飾り居心地の良い空間作りに努めている。	椅子、テーブル、鏡台、家族写真、時計、ぬいぐるみ、植木鉢、手づくりカレンダーなど、馴染みのものや好みのものを持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、廊下や居室、浴室に手摺を取り付け安全に自立した生活が出来るようにしている。居室やトイレは名札や表示で場所が分かりやすいように工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームひかりの園

作成日: 令和 元 年 6 月 10 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	緊急時の対応について内部研修で学んでいるが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身に付けるまでには至っていない。	全ての職員が緊急時に慌てず初期対応や応急手当が出来るようになる。	定期的な内部研修の継続で繰り返し学び実践力を身に付ける。	12ヶ月
2	36	連絡先のリストは作成しているが、連絡網が未活用で、協力体制を築くには至っていない。	地域との協力体制の構築。	運営推進会議での議題提案、連絡網を整備し、協力体制が構築できるようにする。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。